

編集室

* 本欄の執筆も3回目となり、C分野の編集特別幹事を拝命してから早1年余りが過ぎたこととなります。今顧みますと、あっという間の出来事でしたが、特段問題なく会誌編集業務が遂行できたことは、会誌読者の皆様の暖かい見守りと、編集委員や事務局の皆様の御協力の賜物であると感謝致しております。

* 一点反省点を申し上げるとすれば、「半導体」を中心とするC分野の担当する特集が、他分野と比較致しまして、少なかったことが挙げられますが、このことに関しましては、現在複数の編集企画中でございまして、もう少しの時間を頂ければと考えております。

* さて、会誌の編集作業に携わるようになると、気になることの一つに、読者の皆様にとって、会誌というものはどのような位置付けの情報媒体であるのか、ということがございます。

* 本拙文をお読み頂いている皆様は、お手元に届きました会誌送付物の封も開けられないことはないわけですが、中には、内容には無関心であり、会誌の受取行為自体のみが、会員であることを月に一度再認識する手段として、意味あることとなってしまわれている方もおられるかもしれません。

* しかしながら、多くの皆様がそうであるように、いったん会誌を開いて頂くと、会誌の有する多様な役割を反映して、巻頭言から始まって、編集委員会で企画された特集、解説、講座、ニュース解説、会告・通知、広告に至るまで様々な内容の情報・メッセージが掲載されています。会誌作成に携わっている者の立場からは、お時間が許せば、すべての内容に目を通して頂きたいのですが、読者の皆様は、必要に応じて、取舍選択してお読み頂いているかと御推察致します。

* 会誌編集者に求められていることとすれば、月並みな表現ながら“時間を割いてでも”読みたくなるような特集等の企画能力なのでしょうか。

* それはさておき、読者における会誌の位置付けに関して、今、私が個人的に一番疑問に思っていますことは、私の職場におけるものです。

* 研究現場を離れて、現在、研究開発資金の配分部署で本来業務に従事しているのですが、そこでは、「学会活動」は、業務との関連性が低いとして、私的な活動と位置付けられています。一方で、仕事場には、情報収集源としての位置付けなのでしょうか、商業情報誌と並んで、本会誌だけではなく、本会発行の和文誌と英文誌のすべてが毎月購読されています。

* まさに、充実した品ぞろえなのですが、日常、これらの冊子を読んでいる人は皆無のように思われますし、情報源として、会誌や論文誌が挙げられることもないようです。何が重要な別の位置付けがあるのでしょうか。当面、私にとっては大きな謎のままなようです。

(編集特別幹事 安藤 淳)